

高次方程式の判別式について

おおき みのる
大木 實

係数が実数の整方程式 $f(x)=0$ ①

について $f(x)=a_0x^2+a_1x+a_2=a_0(x-\alpha)(x-\beta)$ ($a_0 \neq 0$) ②

ならば、解 α, β が重解か否か、また、実数か否か、を調べるのに

$D=a_1^2-4a_0a_2=a_0^2(\alpha-\beta)^2$ の値を求め、 $D=0$ か $D \neq 0$ か、また $D > 0$ か $D < 0$ かを調べます。

D を “方程式①の判別式；整式②の判別式； α, β の判別式” などといいます。

この考えを一般化し、今後①は n 次方程式の場合を扱い

$f(x)=a_0x^n+a_1x^{n-1}+\dots+a_n$ ($a_0 \neq 0$) ($n \geq 2$) ③

として、その判別式の条件を考えます。

このとき①が解として虚数 $\alpha=p+qi$ ($p, q (\neq 0)$ は実数, $i=(-1)^{\frac{1}{2}}$) をもてば、同時に α の共役複素数 $\bar{\alpha}=p-qi$ も解となります。ゆえに、 $f(x)$ は $(x-\alpha)(x-\bar{\alpha})=(x-p)^2+q^2$ を因数にもちます。

①は n 個の解をもつので、 m 対の共役複素数 $\alpha_k=p_k+q_ki, \bar{\alpha}_k=p_k-q_ki$ ($k=1, 2, \dots, m$) と、残り $s=n-2m$ 個の実数 t_h ($h=1, 2, \dots, s$) を解とするとき

$$f(x)=a_0\prod_{k=1}^m\{x-(p_k+q_ki)\}\{x-(p_k-q_ki)\}\prod_{h=1}^s(x-t_h)=a_0\prod_{k=1}^m(x-\alpha_k)(x-\bar{\alpha}_k)\prod_{h=1}^s(x-t_h)$$

と表せます。 $(x-\alpha_k)(x-\bar{\alpha}_k)$ の判別式が $(\alpha_k-\bar{\alpha}_k)^2=-4q_k^2 < 0$ なので

$$\prod_{k=1}^m(\alpha_k-\bar{\alpha}_k)^2=\prod_{k=1}^m(-4q_k^2)$$
 の符号は $(-1)^m$ の符号と同じです。

n が奇数のとき s は奇数となり①は 1 個以上の実数解をもちます[充分大きな正数 x_0 をとると $x < -x_0$ のとき $a_0f(x) < 0, x > x_0$ のとき $a_0f(x) > 0$ なので明らかです]。

$$(p_k, q_k)=(p_{k'}, q_{k'}), 1 \leq k < k' \leq m \text{ あるいは } t_h=t_{h'}, 1 \leq h < h' \leq s$$

を満たす k, k' あるいは h, h' が存在するときは①は重解をもち

$$\prod_{k=2}^m\prod_{k'=1}^{k-1}(\alpha_k-\alpha_{k'})\prod_{h=2}^s\prod_{h'=1}^{h-1}(t_h-t_{h'})$$
 の値は 0 となります。

$$\alpha_{m+k}=\bar{\alpha}_k (k=1, 2, \dots, m), s \geq 1 \text{ のとき } \alpha_{2m+h}=t_h (h=1, 2, \dots, s) \quad ④$$

とおくと α_k ($k=1, 2, \dots, n$) は①のすべての解を表します。

③の判別式を次式 D で定義します、 $D=a_0^{2n-2}\prod_{k=2}^m\prod_{k'=1}^{k-1}(\alpha_k-\alpha_{k'})^2$ ⑤

ただし、⑤の右辺は③の係数 a_k ($k=0, 1, 2, \dots, n$) を用いて表される整式です。

命題 1. ⑤の D の値は①が重解をもつときは 0 となり、重解がなく共役複素数の解を m 対もつときはその符号が、 m が偶数のときは正、奇数のときは負となります。

証明：④の場合 $D=D(m, s)$ で表し、 $D \neq 0$ のとき $\frac{D}{|D|}=\varepsilon(m, s)$ とおきます。

$$\varepsilon(0, h)=1 (h=1, 2, \dots), \varepsilon(1, 0)=-1, \varepsilon(1, 1)=-1$$

$$D(m, s+1)=a_0^2D(m, s)\prod_{k=1}^m\{(t_{s+1}-\alpha_k)(t_{s+1}-\bar{\alpha}_k)\}^2\prod_{h=1}^s(t_{s+1}-t_h)^2,$$

$$(t_{s+1}-\alpha_k)(t_{s+1}-\bar{\alpha}_k) > 0 \therefore \varepsilon(m, s+1)=\varepsilon(m, s) \therefore \varepsilon(1, h)=-1 (h=0, 1, 2, \dots)$$

$$\begin{aligned}
D(m+1, s) &= a_0^4 D(m, s) (\alpha_{m+1} - \bar{\alpha}_{m+1})^2 \prod_{h=1}^s \{(\alpha_{m+1} - t_h)(\bar{\alpha}_{m+1} - t_h)\}^2 \\
&\quad \cdot \prod_{h=1}^s \{(\alpha_{m+1} - \alpha_h)(\bar{\alpha}_{m+1} - \bar{\alpha}_h)(\alpha_{m+1} - \bar{\alpha}_h)(\bar{\alpha}_{m+1} - \alpha_h)\}^2 \\
&(\alpha_{m+1} - t_h)(\bar{\alpha}_{m+1} - t_h) > 0, (\alpha_{m+1} - \alpha_h)(\bar{\alpha}_{m+1} - \bar{\alpha}_h) > 0, (\alpha_{m+1} - \bar{\alpha}_h)(\bar{\alpha}_{m+1} - \alpha_h) > 0, \\
&(\alpha_{m+1} - \bar{\alpha}_{m+1})^2 < 0 \quad \therefore \varepsilon(m+1, s) = -\varepsilon(m, s) \quad \therefore \varepsilon(k, h) = (-1)^k \varepsilon(0, h) = (-1)^k \\
&(k=0, 1, 2, \dots; h=0, 1, 2, \dots). \text{ ⑤から①の解に重解があれば } D=0 \text{ となり, 逆も成立.}
\end{aligned}$$

命題2. ⑤の D を③の $f(x)$ の係数 a_k ($k=0, 1, 2, \dots, n$) を使って表せます.

証明:

$$E(\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_n) = \begin{vmatrix} 1 & \alpha_1 & \alpha_1^2 & \alpha_1^3 & * & \alpha_1^{n-1} \\ 1 & \alpha_2 & \alpha_2^2 & \alpha_2^3 & * & \alpha_2^{n-1} \\ 1 & \alpha_3 & \alpha_3^2 & \alpha_3^3 & * & \alpha_3^{n-1} \\ * & * & * & * & * & * \\ 1 & \alpha_n & \alpha_n^2 & \alpha_n^3 & * & \alpha_n^{n-1} \end{vmatrix}$$

とおくと E は $\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_n$ に関し次数が $1+2+\dots+(n-1)=\frac{n(n-1)}{2}$ の同次式となり, 任意の

k, m ($1 \leq k < m \leq n$) で $E(\dots, \alpha_k, \dots, \alpha_m, \dots)$ に対し $E(\dots, \alpha_k, \dots, \alpha_k, \dots) = 0$ となり, E は $\alpha_m - \alpha_k$, ($1 \leq k < m \leq n$) を因数にもちます. 展開式の項 $\alpha_2 \alpha_3^2 \dots \alpha_n^{n-1}$ の係数が 1 なので次式が成立します.

$$E = \prod_{k=2}^n \prod_{m=1}^{k-1} (\alpha_k - \alpha_m) \quad ⑥$$

$$E^2 = \begin{vmatrix} 1 & 1 & * & * & 1 & | & 1 & \alpha_1 & * & * & \alpha_1^{n-1} & | & \beta_1 & \beta_2 & * & \beta_n \\ \alpha_1 & \alpha_2 & * & * & \alpha_n & | & 1 & \alpha_2 & * & * & \alpha_2^{n-1} & | & \beta_2 & \beta_3 & * & \beta_{n+1} \\ * & * & * & * & * & | & * & * & * & * & * & | & * & * & * & * \\ * & * & * & * & * & | & * & * & * & * & * & | & * & * & * & * \\ \alpha_1^{n-1} & * & * & * & \alpha_n^{n-1} & | & 1 & \alpha_n & * & * & \alpha_n^{n-1} & | & \beta_n & \beta_{n+1} & * & \beta_{2n-1} \end{vmatrix}$$

$\beta_k = \sum_{h=1}^n \alpha_h^{k-1}$ は $\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_n$ に関し対称式なので⑤, ⑥から $D = a_0^{2n-2} E^2 \quad ⑦$

は $a_0, a_1, a_2, \dots, a_n$ で表せます.

命題3. $n \geq 2$ のとき①が重解をもつための必要十分な条件は

① $[f(x)=0]$ と①の微分式 $[f'(x)=0]$ とが共通解をもつことです.

証明: α が①の重解のとき $f(x) = (x-\alpha)^2 p(x)$ ただし, $p(x)$ は $n-2$ 次式とおけますから

$$f'(x) = (x-\alpha) \{2p(x) + (x-\alpha)p'(x)\}$$

となり, $f(x), f'(x)$ は共通な因数 $x-\alpha$ をもちます.

逆に $f(\alpha)=0$ かつ $f'(\alpha)=0$ のとき

$n-1$ (≥ 1) 次式の $f'(x)$ は $f'(x) = (x-\alpha)h(x)$ $h(x)$ は $n-2$ 次式とおけます.

$$\therefore f(x) = \int_{\alpha}^x (x-\alpha)h(x) dx = \frac{(x-\alpha)^2 h(x) - \int_{\alpha}^x (x-\alpha)^2 h'(x) dx}{2}$$

$$\lim_{x \rightarrow \alpha} \frac{\int_{\alpha}^x (x-\alpha)^2 h'(x) dx}{x-\alpha} = \lim_{x \rightarrow \alpha} (x-\alpha)^2 h'(x) = 0, \quad \int_{\alpha}^x (x-\alpha)^2 h'(x) dx \text{ は } n \text{ 次式,}$$

$$\therefore \frac{\int_{\alpha}^x (x-\alpha)^2 h'(x) dx}{x-\alpha} = (x-\alpha)g(x), \quad g(x) \text{ は } n-2 \text{ 次式とおけます.}$$

$$\therefore f(x) = \frac{(x-\alpha)^2 \{h(x)-g(x)\}}{2}$$

$f(x)$ は n (≥ 2) 次式なので $h(x)-g(x)$ は定数 0 ではなく, ①は重解 α をもちます.

命題4. $f(x)=0$ と $f'(x)=0$ とが共通根をもつための必要十分な条件は行列式

$$R = \begin{vmatrix} a_0 & a_1 & a_2 & * & * & a_n \\ a_0 & a_1 & a_2 & * & * & a_n \\ * & * & * & * & * & * \\ & a_0 & a_1 & a_2 & * & * \\ na_0 & (n-1)a_1 & * & * & a_{n-1} & \\ na_0 & (n-1)a_1 & * & * & a_{n-1} & \\ * & * & * & * & * & \\ * & * & * & * & * & \\ na_0 & (n-1)a_1 & * & * & a_{n-1} & \end{vmatrix} \quad (\text{空白は} 0) \quad (8)$$

に対し $R=0$ が成立することです [R は $f(x)$, $f'(x)$ の終結式です].

証明: 共通解を α とし $f(\alpha)=0$ と $f'(\alpha)=0$ とから α を消去した式を求めます.

$$f(x) = \sum_{k=0}^n a_k x^{n-k} \text{ ならば } f'(x) = \sum_{k=0}^{n-1} (n-k) a_k x^{n-k-1} \text{ なので } f(\alpha)=0 \text{ かつ } f'(\alpha)=0 \text{ のときは} \\ \alpha^h \sum_{k=0}^n a_k \alpha^{n-k} = 0 \quad (h=0, 1, 2, \dots, n-2), \quad \alpha^h \sum_{k=0}^{n-1} (n-k) a_k \alpha^{n-k-1} = 0 \quad (h=0, 1, 2, \dots, n-1)$$

が成立し、この $2n-1$ 個の α の多項式 [最高次数 $2n-2$] から α^h ($h=1, 2, \dots, 2n-2$) を消去して (8) の R について $R=0$ が得られます.

逆に $R=0$ のとき、(8) の $2n-1$ 次正方行列を A とし、 A の転置行列を A' で表します.

$2n-1$ 次列ベクトル X, O の転置行列は $X'=(x^{2n-2}, x^{2n-3}, \dots, x, 1)$, $O'=(0, 0, \dots, 0)$ とします.

$$|A'|=|A|=R=0$$

$\therefore A'C=O, C \neq O$ を満たす $2n-1$ 次列ベクトル C が存在し、 $C'=(c_1, c_2, \dots, c_{2n-1})$ とします.

$C'AX=(A'C)'X=O'X=0$ 一方、この $C'AX$ の展開式は

$$C'AX=(c_1, c_2, \dots, c_{2n-1})(x^{n-2}f(x), x^{n-3}f(x), \dots, f(x), x^{n-1}f'(x), x^{n-2}f'(x), \dots, f'(x))' \\ =(c_1x^{n-2}+c_2x^{n-3}+\dots+c_{n-1})f(x)+(c_nx^{n-1}+c_{n+1}x^{n-2}+\dots+c_{2n-1})f'(x)$$

ゆえに $f(x)=0$ と $f'(x)=0$ とには共通解があります.

命題5. (6) の D は $D=\frac{(-1)^{\frac{n(n-1)}{2}}}{a_0}R$ と表せます.

証明: (3) の右辺を因数分解し、 $\sum_{k=0}^n a_k x^{n-k}=a_0 \prod_{k=1}^n (x-\alpha_k)$ とします. この右辺を展開し

$$\frac{a_1}{a_0}=-(\alpha_1+\alpha_2+\dots+\alpha_n), \quad \frac{a_2}{a_0}=\alpha_1\alpha_2+\dots+\alpha_{n-1}\alpha_n, \quad \dots, \quad \frac{a_n}{a_0}=(-1)^n \alpha_1\alpha_2\dots\alpha_n$$

$\frac{a_k}{a_0}$ は $-\alpha_1, -\alpha_2, \dots, -\alpha_n$ の n 個から k 個を選びその積を作り、選び方 ${}_n C_k$ 通りすべてにつきその和を

表します. ゆえに $\frac{a_k}{a_0}$ は $\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_n$ に関し k 次の対称式です.

この各式を(8)に代入すると $G=a_0^{1-2n}R$ (9) は $\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_n$ の対称式となります.

$\alpha_k=\alpha_m$, $1 \leq k < m \leq n$ を満たす k, m が存在するときは(1)が重解をもち、 $R=0$ となるので G は $\alpha_k-\alpha_m$ を因数にもちます. 対称式の関係から G は(6)の E で割り切れ、その商を H とします.

$G(\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_n)=E(\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_n) \cdot H(\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_n)$ で α_k, α_m ($1 \leq k < m \leq n$) を交換すると

$$G(\alpha_1, \dots, \alpha_m, \dots, \alpha_k, \dots, \alpha_n)=G(\alpha_1, \dots, \alpha_k, \dots, \alpha_m, \dots, \alpha_n),$$

$$E(\alpha_1, \dots, \alpha_m, \dots, \alpha_k, \dots, \alpha_n)=-E(\alpha_1, \dots, \alpha_k, \dots, \alpha_m, \dots, \alpha_n).$$

$$\therefore H(\alpha_1, \dots, \alpha_m, \dots, \alpha_k, \dots, \alpha_n)=-H(\alpha_1, \dots, \alpha_k, \dots, \alpha_m, \dots, \alpha_n).$$

$$\therefore H(\alpha_1, \dots, \alpha_k, \dots, \alpha_m, \dots, \alpha_n)=-H(\alpha_1, \dots, \alpha_k, \dots, \alpha_k, \dots, \alpha_n).$$

$$\therefore H(\alpha_1, \dots, \alpha_k, \dots, \alpha_m, \dots, \alpha_n)=0$$

となり H は $\alpha_k - \alpha_m$ を因数とします。 $1 \leq k < m \leq n$ を満たす任意の k, m についても同様なので H は E の倍数です。よって、 G は E^2 の倍数で、 E^2 は $\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_n$ に関し $n(n-1)$ 次の同次式です。

行列式 R の (i, j) 要素を a_{ij} とするとき⑧から次に示す項以外は値が 0 です。

$1 \leq i \leq n-1$ のとき $a_{0b_{ij}} = a_{j-i}$ ($0 \leq j-i \leq n$)

$n \leq i \leq 2n-1$ のとき $a_{0b_{ij}} = (i-j+1)a_{j-i+n-1}$ ($i-n+1 \leq j \leq i$) となり、⑧の展開した項

$a_0^{2n-1} b_{1p_1} b_{2p_2} \cdots b_{2n-1p_{2n-1}}$ [$(p_1, p_2, \dots, p_{2n-1})$ は $(1, 2, \dots, 2n-1)$ の順列]

は個数が $(2n-1)!$ 個あり、そのいずれも a_0 以外の $-\alpha_1, -\alpha_2, \dots, -\alpha_n$ に関する次数は

$(p_1-1) + (p_2-2) + \cdots + (p_{n-1}-n+1) + ((p_n-n) + (p_{n+1}-n-1) + \cdots + (p_{2n-1}-2n+1) + n(n-1)) = n(n-1)$ となり、 G は $\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_n$ に関し $n(n-1)$ 次の同次式です。

ゆえに $G_q = E^2$ ⑩とおくと、 q は α_k ($1 \leq k \leq n$) に無関係な定数です。

定数 q の値を $f(x) = a_0(x^n - 1) \therefore f'(x) = n a_0 x^{n-1}$ として求めます。この場合⑧、⑨から

$$\begin{aligned}
 G &= \begin{vmatrix} 1 & & -1 & & 1 \\ & 1 & & -1 & \\ & * & & * & \\ & & 1 & & -1 \\ n & & & & \\ n & & & & \\ * & & & & \\ n & & & & \\ n & & & & \\ n & & & & \\ \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 1 & & & & \\ & 1 & & & \\ & & 1 & & \\ & & & 1 & \\ & & & & n \\ \end{vmatrix} \\
 &= \begin{vmatrix} n & & & & n \\ & n & & & n \\ & & * & & \\ & & & n & \\ n & & & & \\ \end{vmatrix} = (-1)^{n-1} n \begin{vmatrix} n & & & & n \\ & n & & & n \\ & & * & & \\ & & & n & \\ n & & & & n \\ \end{vmatrix} = (-1)^{n-1} n^n
 \end{aligned}$$

(空白の要素は 0)

この場合の解は $\alpha_k = J^{k-1}$ ($k=1, 2, \dots, n$) ただし $J = e^{\frac{2\pi i}{n}}$ $\therefore \alpha_k^n = 1$

$\therefore \beta_1 = n, \beta_{n+1} = n$ その他 $2 \leq k \leq n$ または $n+2 \leq k \leq 2n-1$ のときは

$$\beta_k = \sum_{h=1}^n \alpha_h^{k-1} = \sum_{h=1}^n J^{(h-1)(k-1)} = \frac{1 - J^{n(k-1)}}{1 - J^{k-1}} = 0$$

$$\therefore E^2 = \begin{vmatrix} n & & & & n \\ & n & & & n \\ & & * & & \\ & & & n & \\ n & & & & n \\ \end{vmatrix} = n^n (-1)^{(n-2)+(n-3)+\cdots+2+1} = n^n (-1)^{\frac{(n-1)(n-2)}{2}}$$

$$\therefore q = \frac{E^2}{G} = (-1)^{\frac{n(n-1)}{2}}$$

この値と⑦、⑩、⑨から $D = \frac{(-1)^{\frac{n(n-1)}{2}}}{a_0} R$

具体例

$$1) \quad f(x) = a_0 x^3 + a_1 x^2 + a_2 x + a_3 (a_0 \neq 0) \quad \therefore f'(x) = 3a_0 x^2 + 2a_1 x + a_2$$

$$D = -\frac{1}{a_0} \begin{vmatrix} a_0 & a_1 & a_2 & a_3 \\ & a_0 & a_1 & a_2 & a_3 \\ 3a_0 & 2a_1 & a_2 & & \\ & 3a_0 & 2a_1 & a_2 & \\ & & 3a_0 & 2a_1 & a_2 \end{vmatrix} = -(27a_0^2 a_3^2 - 18a_0 a_1 a_2 a_3 + 4a_0 a_2^3 + 4a_1^3 a_3 - a_1^2 a_2^2)$$

2) $f(x) = x^3 + x^2 - 2 \quad \therefore \quad f'(x) = 3x^2 + 2x$

$$D = - \begin{vmatrix} 1 & 1 & -2 \\ 1 & 1 & -2 \\ 3 & 2 & \\ 3 & 2 & \\ 3 & 2 & \end{vmatrix} = -100 < 0 \quad f(x) = (x-1)(x^2+2x+2) \quad \text{解に } x=1, -1\pm i$$

3) $f(x) = x^3 - x^2 - x + 1 \quad \therefore \quad f'(x) = 3x^2 - 2x - 1$

$$D = - \begin{vmatrix} 1 & -1 & -1 & 1 \\ 1 & -1 & -1 & 1 \\ 3 & -2 & -1 & \\ 3 & -2 & -1 & \\ 3 & -2 & -1 & \end{vmatrix} = 0 \quad f(x) = (x+1)(x-1)^2 \quad \text{解に } x=-1, 1, 1$$

4) $f(x) = x^4 + 5x^2 + 4 \quad \therefore \quad f'(x) = 4x^3 + 10x$

$$D = \begin{vmatrix} 1 & 5 & 4 & \\ 1 & 5 & 4 & \\ 4 & 10 & 4 & \\ 4 & 10 & 4 & \\ 4 & 10 & 4 & \end{vmatrix} = 5184 > 0 \quad f(x) = (x^2+1)(x^2+4) \quad \text{解に } x=\pm i, \pm 2i$$

5) $f(x) = x^4 - 2x^3 + 2x^2 - 2x + 1 \quad \therefore \quad f'(x) = 4x^3 - 6x^2 + 4x - 2$

$$D = \begin{vmatrix} 1 & -2 & 2 & -2 & 1 & \\ 1 & -2 & 2 & -2 & 1 & \\ 4 & -6 & 4 & -2 & & \\ 4 & -6 & 4 & -2 & & \\ 4 & -6 & 4 & -2 & & \\ 4 & -6 & 4 & -2 & & \end{vmatrix} = 0 \quad f(x) = (x-1)^2(x^2+1) \quad \text{解に } x=1, 1, \pm i$$

《重解に関しての補足》

命題 6. n 次方程式 $f(x)=0$ が α を m ($2 \leq m \leq n$) 重解にもつ必要十分な条件は微分式

$f^{(r)}(\alpha)=0$ ($r=0, 1, 2, \dots, m-1$), $f^{(m)}(\alpha) \neq 0$ がすべて成立することです。

証明: $f(x)$ を $f(x) = \sum_{k=0}^n c_k(x-\alpha)^k$ とおき $(x-\alpha)$ のベキ級数に展開すると, r 次導関数は

$$f^{(r)}(x) = \sum_{k=r}^n c_k k(k-1)\dots(k-r+1)(x-\alpha)^{k-r} \quad (0 \leq r \leq n) \quad \therefore \quad f^{(r)}(\alpha) = c_r r!$$

必要条件: $f(x)$ が $(x-\alpha)^m$ で割り切れ, $(x-\alpha)^{m+1}$ で割り切れないためには

$$c_r = 0 \quad (r=0, 1, 2, \dots, m-1) \quad \text{かつ} \quad c_m \neq 0$$

$\therefore f^{(r)}(\alpha) = 0$ ($r=0, 1, 2, \dots, m-1$) かつ $f^{(m)}(\alpha) \neq 0$ が必要です。

十分条件: $f^{(r)}(\alpha) = 0$ ($r=0, 1, 2, \dots, m-1$) かつ $f^{(m)}(\alpha) \neq 0$ のときは

$c_r = 0$ ($r=0, 1, 2, \dots, m-1$) かつ $c_m \neq 0$ が成立するので $f(x)$ は因数 $(x-\alpha)$ をちょうど m 個もち, α は $f(x)=0$ の m 重解になります。

(ただし, $r=0, 1, 2, \dots, m-1$)

[$f(x)=0$ の重解 α が求まれば、その重解度 m は $f(x)$ を組立除法により $x-\alpha$ で繰り返し割って求めるのが便利です]

命題7. 高次方程式 $f(x)=0$ について、 $f(x)$ と $f'(x)$ の最大公約数を $g(x)$ とすると、 $f(x)=0$ の重解は、同時に $g(x)=0$ の解であり、 α が $f(x)=0$ の m (≥ 3) 重解のときは、 α は同時に $g(x)=0$ の $m-1$ 重解です。逆も成立します。

証明：命題3. により α が $f(x)$ の重解のときは $x-\alpha$ は $f(x)$, $f'(x)$ 共通の因数なので $g(x)$ の因数です。

$$\therefore g(\alpha)=0$$

逆に $g(\alpha)=0$ ならば $f(\alpha)=0, f'(\alpha)=0$ が成立し、 α は $f(x)=0$ の重解です。

命題6. により α が $f(x)$ の m 重解のときは $f(x)$ は $(x-\alpha)^m$ で割れ、 $f'(x)$ の $(x-\alpha)$ ベキ展開式が $(x-\alpha)^{m-1}$ で割れ、 $(x-\alpha)^m$ で割れませんから $g(x)$ は $(x-\alpha)^{m-1}$ を因数にもち、 α は $g(x)=0$ の $m-1$ 重解です。

逆に α が $g(x)=0$ の $m-1$ 重解のとき $f'(x)$ は $(x-\alpha)^{m-1}$ で割れ、 $(x-\alpha)$ ベキ展開式は

$$f'(x) = (x-\alpha)^{m-1} \sum_{k=0}^{n-m} c_k (x-\alpha)^k = \sum_{k=0}^{n-m} c_k (x-\alpha)^{m+k-1} \quad (\text{各 } c_k \text{ は定数}) \quad \text{と表せます。}$$

$$\therefore f(x) = \sum_{k=0}^{n-m} \frac{c_k (x-\alpha)^{m+k}}{m+k} + c \quad (c \text{ は定数}) \quad f(\alpha)=0 \quad \therefore c=0$$

$$\therefore f(x) = (x-\alpha)^m \sum_{k=0}^{n-m} \frac{c_k}{m+k} (x-\alpha)^k \text{ となり } \alpha \text{ は } f(x)=0 \text{ の } m \text{ 重解になります。}$$

1995.10.1 (元 追手門学院高校)